

# 「たまには

# 呑みましよう」の大切

玄田 有史（東京大学社会科学研究所教授）

それにしても、これほどの調査がよくできたものだと思う。

北高校、工業高校、商業高校、南高校の四校の同窓会にすべてご協力をいただいた『釜石出身の方々の生活と意識に関するアンケート』。お願いしておいて言うのも何だけれど、実施は難しいだろうと当初は内心思っていた。個人情報やプライバシー保護の意識が高まるなか、一人ひとりの人生の歩みを細かく尋ねる調査にご協力くださる方が、どれだけいらっしゃるのか。

同窓会を装い寄付を名目に詐欺行為を働くやからが横行する時代だ。私も出身高校（島根県立松江南高校）の同窓会に関係していてわかるが、すべての卒業生に簡単に連絡が取れるわけでない。出身地や卒業校に良い思い出を持っている人はかりでもない。そういう

方が多ければ、同窓会を通じた調査はそれだけ困難だ。

けれど、心配は杞憂だった。昨年10月1日の『広報かまいし』で、永井暁子さんも書いていたように、同窓会のみなさんの心からのご尽力のおかげで、この種の調査では通常考えられない程のご回答結果が返ってきた。釜石、すごい。

調査からいろいろなることを知りたいと思つた。特に知りたいと思つていたのは、「誇り」と「希望」の関係だった。私たちが釜石にかがうようになった理由は、釜石の住民や関係者のみなさんが、いま何を希望と考へて行動されているのかを知りたかつたから。希望を調査するのは、最初から決まっていた。ただそれとあわせて、釜石の皆さんが、自分たちの生まれ育つたふるさとをどう考へている

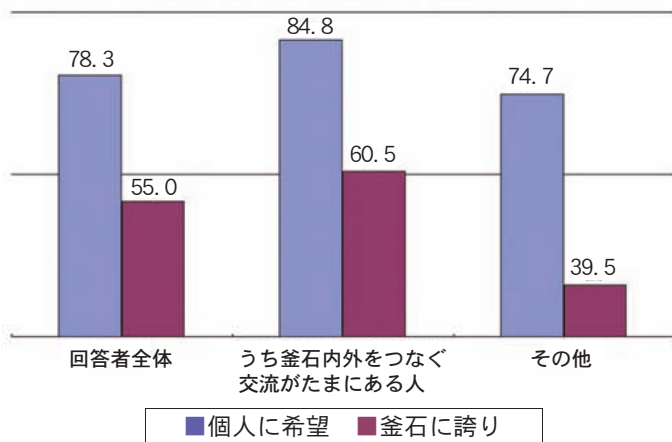
のか、知りたかつた。その思いを地域の「誇り」について聞くという質問に込めてみた。

まず希望について「将来実現してほしいこと・させたいことがありますか」と尋ねた。すると、78パーセントの出身者が「ある」とお答えになった。約8割に希望があるというのは、別途行った全国調査の結果と一致する。釜石出身者が特別希望がないわけではない。

ただ、その希望が実現すると考へる人たちの割合は、若干低くなつていた。ただ言い換えれば、たとえ叶わなかつたとしても、希望を持って挑戦する気概を持った人たちが、釜石には多いともいえる。釜石で地域が元気になるために活動が続いている年配の男性が「自分は夢を持って死んでいくのが夢」と中学生に語つていたのを思い出す。

一方、誇りはどうだろう。「釜石を誇りに

個人としての希望がある割合・釜石を誇りに思う割合 (%)



思うことがありますか」という問いに「ある」と答えた方は、全体の55パーセント。微妙な数字が返ってきた。私たちが釜石でお目にかかった方の多くは、生まれ育った釜石を誇りに思う方が多かったように思う。でも、実際にはみんなが誇りに思っているわけではない。何年か後に同じ調査をしたとき、誇りに思う割合がもっと増えてほしい。

では、釜石を誇りに思う人たちにはどんな特徴があるのだろうか。分析からは二つの特徴傾向が強みられた。

もう一つの特徴は、個人として何か希望を持っている人のほうが、そうでない人よりも釜石を誇りに感じている事実だった。希望の実現に向けて、具体的に行動している人は、同時に自分の原点となる出身地に誇りを持つ傾向が強みられた。

地域の元気には、住民や関係者の一人ひとりが、地域に自分なりの誇りを持つことが何より大切。私はそう思う。希望学のメンバーである中村尚史さんが、イギリスを例として言っていた。「地域が再生するために、誰もが何らかの負担は避けられない。問題はイヤながら負担するか、納得して負担するか、それで効果は全然違う」。納得づくの負担には、地域への誇りや、その前提となる個人の希望が欠かせない。

では、どんな人が希望を持ちやすいのか？ データによると、釜石出身者で希望を持っている人には、住んでいる地域を越えて、たまに交流する友だちや知り合いのいることが多かった。地域の内外を結ぶ人とのつながりが、希望を発見するヒントを与え、同時に釜石の良さに気付くチャンスとなる。



**Profile** げんだ・ゆうじ

昭和39年島根県生まれ。東京大学社会科学研究所教授。専攻は労働経済学。著書『仕事のなかの曖昧な不安』『ジョブ・クリエーション』『人間に格はない』など。

「たまには呑みましょう」。じかに会っておいしい肴に酒を酌み交わすもよし。手紙やメールをやりとりするもよし。虎舞いやトラアスロン。ラグビー、同窓会、きぼう塾、NPO、グリーンツーリズム。市民活動や助けあい等等。そんな人と人の緩やかなつながりこそ、一人ひとりの希望との出会いや、地域の誇りの共有につながっていく。

今回の調査から、釜石で学んだ希望の言葉の数々を私はあらためて今噛みしめている。

「釜石に希望はある。でももっとあるはず。もっとつながっていかう」誰かに押しつけられた希望は希望じゃない。自分で行動しみつければ「希望は伝播する。希望は人から人へと伝わっていく」。